

大分☆農・カーボンプロジェクト第 8 回勉強会兼大分県女性農業者交流会 概要

九州農政局大分県拠点

全体を通して出された意見の概要等は以下のとおりです。

<環境に優しい取組の実践例、今後実践してみたいこと>

- ・集落営農法人として、先祖代々からの田んぼが荒れずに当たり前にあるような環境を子どもたちへ繋いでいくため、中山間地域で集落の農地を維持するために努力している。
- ・自生するしそやヨモギも活用し、無人販売所で販売している。
- ・生物多様性の維持にも寄与するレンコンを栽培している。
- ・学校給食への食材提供をはじめ、子供たちへ資源循環を学ぶ体験の場を提供している。
- ・販売サイトに、環境負荷低減や環境省の HP 資料を付けている。
- ・コンポストを設置し、生ごみを減らしている。ボカシ肥料と混ぜ家庭菜園に活用。
- ・竹炭と生ごみを混ぜて土壌に撒くと臭いもなくなる。大分には竹がたくさんある。資源はどんどん活用すべき。
- ・消費者の立場の時には、値段に左右されず、産地を選択して購入している。
- ・一生懸命頑張っている農家さんとのネットワーク作りから始め、将来的には環境保全型農業のグループ化や、組織化してブランドを立ち上げられたらいいと思う。グループ内で需要に応じた品目をバランスよく作り、外国産との差別化を売りに販売拠点を地域に置く。
- ・傷んだ野菜等も瞬間冷凍して生ジュースを作るなど、無駄にしない。また、食材をバランスよく摂取するため 1 か月の野菜セットなども販売できたら良い。
- ・(話を聞いて) みどり戦略は意外と身近なことだと気づいた。自分は農薬を適正使用した慣行栽培を行っており、農産物の価格を支えているのも慣行栽培であると思うが、有機栽培に切り替えるまでには至らなくても、私たちでもできる水稻の中干し期間を少しだけ長くするとか、できることから取り組んでいきたい。
- ・無農薬栽培に取り組んでいるが農薬は悪ではない。農薬についてもっと勉強してみたい。

<販売の工夫等について>

- ・加工向けより青果での販売の方が利益率は高い。カボスはジュース加工が主流だが、1 コンテナ 1000 円程度の安値で取引され、自分で加工するにしても、加工所設置や機材の初期投資、人件費、流通コスト等のリスクも伴う。
- ・栽培についてのストーリーを YouTube 動画で配信していることでブランド化につながっている。
- ・毎月、田んぼの風景とか家族の事とか通信を発行することで、顔も知らないお客さんが繋がりを感じ、長年顧客となってくれている。
- ・就農 3 年目、自然農法、不耕起栽培でハーブを生産しているが、販売はインスタに力を入れている。最初 1 年半まで商品がない中でも四苦八苦している状況等を発信していた。「美味しかった」との口コミの力が大きく、お客がお客を紹介してくれる。バイヤー

からもインスタを見たときと商談もある。やはり SNS の活用はマストになっており、小規模で宣伝費用を掛けられない人にはお勧めである。

- ・写真は文字の 7 倍、動画は 5 千倍伝わると言われているが、顔をみて声を聴いたら親近感がわき、購買率が上がるのではないかな。

<農業政策や行政について感じる事>

- ・なるべく良い物を提供したいと思い低農薬や無農薬を目指しているが、海外からの物が見た目や、広告・リーフレットの美しさにごまかされ、低農薬・無農薬栽培は打ち砕かれていく現状。大元の輸入と輸出のバランスを保つように整備されないと、農家がいくら広告や宣伝を行っても太刀打ちできない。
- ・食育や子どもの時から習慣づけることが大事で、米とみそ汁をソウルフードにしたいと思っている。
- ・飼料用米も必要と認識しているが、主食米の値段が下がる一方。米を守らなければならないのに、担い手もいなくなり、田んぼが宅地になるのは悲しい。
- ・裏作もしていない米一本の営農だが、米価は上がらないのに肥料等資材費が高騰しているため、ネット販売を始めた。経費を掛けないと美味しいお米ができなくなる。輸出も考えたが値段が折り合わない。
- ・中国は日本の米を求めている。国が輸出に補助するなどもっと輸出に力を入れていただきたい。
- ・有機 J A S 認証を取得するには、費用や登録手続き・管理が大変である。今まで有機栽培をやっていたお年寄りには難しい。既に顧客を持っている場合には取得する必要はない。
- ・行政の書類（申請）を作成するのは、かなりハードルが高い。行政用語を理解すること、枚数の多さ、字が小さいなど。もう少し簡易的にすべき。
- ・もっと、行政を身近に感じられるといい。
- ・国の職員は遠く感じる。このような会は近くに感じられるいい取組である。

<九州農政局次長の総括>

国民は理解しないと納得しない。超えないといけない壁を超えるための準備を国がすべきと考えている。本日は、貴重なお時間をいただき感謝。

以 上